

卒業研究		演習	教授 丸山 高行
科目カテゴリー	国際ビジネス学科の必修科目	科目ナンバリング	21300401

1. テーマ

「企業研究」（企業活動が関係する業界動向や社会現象に関する研究も含む。）

2. ゼミのねらい・概要

3年次の専門ゼミで蓄積した基礎知識をベースに、各ゼミメンバーが自ら選んだ研究テーマについて積極的に研究を深め、卒業論文につなげていくことを基本的なねらいとする。また、卒業論文の作成を通じて論理的な思考方法を習得するだけでなく、卒業後も立派な社会人として国際的に活躍できるように、幅広い素養を身につけてもらいたい。

なお、希望するゼミメンバーには、金融・ファイナンス関係の各種資格（たとえばFP技能士や証券アナリスト）取得の指導も行う。

3. ゼミ計画

ゼミ計画は、概ね以下のとおりとするが、ゼミメンバーの問題意識や関心・興味等を見極めながら適宜見直しを図る。

〈前期〉	〈後期〉
1. ガイダンス（各自の研究テーマの確認など）	1. ガイダンス（卒論完成スケジュールの再確認など）
2. 論文作成にあたっての留意点の解説と質疑応答	2. 卒業論文の中間発表（ゼミ生3～4名）と議論①
3. 卒論論文の骨格の発表（ゼミ生3～4名）と議論①	3. 卒業論文の中間発表（ゼミ生3～4名）と議論②
4. 卒論論文の骨格の発表（ゼミ生3～4名）と議論②	4. 卒業論文の中間発表（ゼミ生3～4名）と議論③
5. 卒論論文の骨格の発表（ゼミ生3～4名）と議論③	5. 卒業論文の中間発表（ゼミ生3～4名）と議論④
6. 卒論論文の骨格の発表（ゼミ生3～4名）と議論④	6. 卒業論文の中間発表（ゼミ生3～4名）と議論⑤
7. 卒論論文の骨格の発表（ゼミ生3～4名）と議論⑤	7. 卒業論文の中間発表（ゼミ生3～4名）と議論⑥
8. 卒論論文の骨格の発表（ゼミ生3～4名）と議論⑥	8. 卒論完成に向けての留意点の解説と質疑応答
9. 卒論論文の概要の発表（ゼミ生3～4名）と議論①	9. 卒業論文の最終発表（ゼミ生3～4名）と議論①
10. 卒論論文の概要の発表（ゼミ生3～4名）と議論②	10. 卒業論文の最終発表（ゼミ生3～4名）と議論②
11. 卒論論文の概要の発表（ゼミ生3～4名）と議論③	11. 卒業論文の最終発表（ゼミ生3～4名）と議論③
12. 卒論論文の概要の発表（ゼミ生3～4名）と議論④	12. 卒業論文の最終発表（ゼミ生3～4名）と議論④
13. 卒論論文の概要の発表（ゼミ生3～4名）と議論⑤	13. 卒業論文の最終発表（ゼミ生3～4名）と議論⑤
14. 卒論論文の概要の発表（ゼミ生3～4名）と議論⑥	14. 卒業論文の最終発表（ゼミ生3～4名）と議論⑥
15. 前期のまとめ（卒論完成に向けた計画作成など）	15. 全体のまとめ（卒業後の心構えなど）

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

①卒業論文の本格的な作成時期は就職活動の時期と重なるので、各自早めかつ計画的に、研究活動を進めて行くこと。

ゼミ開始以降は、論文作成のために、最低週2時間は確保すること。

②ゼミ時間における論文進捗状況等の発表の際は、必ず3時間以上をかけて、入念に事前準備に取り組むこと。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

骨格の発表以降、論文進捗状況等の発表のつど、論文の構成、データ分析の方法、結論の導き方、図表の作成方法、参考文献の選定など多方面にわたって改良点をコメントするので、発表者は次の発表機会までに指導を受けた内容を的確に自身の論文に反映すること。また、発表の際は相互ディスカッションの時間を設けるので、発表者以外のメンバーも、発表内容や受けたコメントを参考に、自身の論文のレベルアップに努めること。

6. ゼミにおける学修の到達目標

卒業論文の作成を通じて論理的な思考方法を習得するだけでなく、卒業後も立派な社会人として国際的に活躍できるように、幅広い素養を身につけることを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

卒業論文の内容（60%）および相互ディスカッションを含めたゼミに対する取組み姿勢（40%）。

8. テキスト・参考文献

各自の研究テーマに応じて、必要と思われる文献や資料などを個別に指示する。

9. 受講上の留意事項

ゼミ生は自身の研究テーマだけでなく、他のメンバーの研究テーマや発表内容にも関心をもち、積極的に議論に参加していく姿勢を期待する。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本ゼミは、金融機関における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。